

本格的な落ち葉の季節が到来…というより襲来です。見上げた先のイチョウの木を指さし「だいぶ黄色くなってきたね」「向こうは赤いよ」と木々の葉の色の変化に気づく子や、色とりどりの葉を拾い集めて花束のようにして持ち帰る子、降る葉をつかもうと奮闘したり、落ち葉の迷路（掃き切れないで通り道をつくってみた）を楽しんだり。そんな子どもの姿を見ると、我々とは落ち葉との向き合い方が違うなあと、ほっとするひと時です。

そんな中迎えた『こどもかい』。年長さんは12月に入ってからですが、年少、年中さんはご参観いただきました。日々の積み重ねをお見せする、とはいっても、当日がいつもと違うのは子どもたちも感じるもの。それぞれの緊張や戸惑いなどが伝わってきました。保護者の方を見つけ、安心した表情を浮かべたり、中にはぎゅっとハグしてもらってパワーを充電したりという姿もありました。緊張することって嫌ですけれど、ひとの成長には必要なことなのかもしれません。ある年長さんが、緊張する気持ちを「乗り越えたんだよ」と話していましたと聞きました。自覚していることも、それを伝えられることもすごいなと感心しました。幼稚園という小さな社会の中でも体感・体得する気持ち（感情）は様々。お友だちと関わる中ではもちろん、嬉しい・楽しいことばかりではありません。うまくできずに悔しかったり、気持ちが伝わらず悲しかったり。でもそれは、“こうなりたい、こうであります”という思いがあるからこそその感情なのだと思うのです。関わる人たちの中で心を動かし、自分なりに整理し、納得して「乗り越え」てゆくのでしょうか。子どもってすごい！です。

『こどもかい』の取り組みの中で、年齢により違いがあるけれど、個々が得た様々な気持ち（感情…喜び・達成感・仲間意識・自信等々プラスの感情であってほしいと願います）は必ずあるはず。それは今後の育ちに何かしらの影響を及ぼすものだと思います。それぞれの成長を楽しみにしたいです。今現在の育ちに関しては、来る面談で担任よりお話があることでしょう。

インフルエンザ等の感染症の流行る季節です。保護者のみなさまもご自愛くださいませ。

（坂本）

今月のねらい（育ってほしい姿や経験してほしいこと）

3歳

- ・友達とあそびのイメージを広げ、言葉を交わしながら遊ぶ
- ・劇ごっこなど、ここが面白いと感じたところを思い切り楽しんでみる
- ・異年齢でのかかわりをもち、親しむ（中長の劇をみる・誕生会・クリスマスなど）

4歳

- ・おもしろそう、やれそうと思えることに、自分からかかわって繰り返し取り組む
- ・自分の力を発揮するうれしさを感じる
- ・クラス全体でまとまってすると楽しい遊びや活動を経験し、実感する

5歳

- ・ドッジボールや鬼ごっこなど、ゲームやルールのある遊びを大勢の友達と一緒に楽しむ
- ・互いにアイデア・イメージを出し合って、話し合ってクラス共通のものにする
- ・全体を見渡して、必要に応じて援助しあうことができる